

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 27 日現在

機関番号：12102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24650368

研究課題名(和文) 東欧における武道文化拠点の形成 ユーロ武道アカデミーの構築

研究課題名(英文) Creating a base of Budo culture in Eastern Europe - establishment of Euro Academy of Budo

研究代表者

酒井 利信 (SAKAI, Toshinobu)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：40281711

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：海外における日本武道の受容のされかたは、競技性に終始することなくその文化性に興味もたれている所に大きな特徴がある。この傾向は、特にヨーロッパに顕著である。しかし、欧州における武道文化に関する情報提供は十分ではなく、我われ日本人研究者・武道指導者が欧州に出向いて、現地に「ユーロ武道アカデミー」を構築できないかというのが、本プロジェクトの基本的な発想である。

本研究においては、ハンガリーの3大学と協定を結び、ブダペストを拠点とした組織ネットワークを構築した。アカデミー用教材として、ハンガリー語と英語の文献を発行した。プログラムの試行として、学生・院生を帯同し「海外武者修行プログラム」を試行した。

研究成果の概要(英文)：One of the distinguishing features of the Western understanding of Japanese Budo is that beyond comprehension as competitive sports there is a deep interest in its cultural side as well - this tendency is especially obvious in Europe. However, available information concerning the cultural aspects of Budo is far from being sufficient - that is why this project to establish 'Euro Academy of Budo' was conceived by Japanese researchers and instructors working in European relations. In this project we signed contracts with three Hungarian universities and created a Budapest-based organizational network, published English and Hungarian texts as teaching material. Moreover, we are to establish a programme to involve undergraduate and graduate students in our activities, called 'International Budo Practice Programme'.

研究分野：武道学

キーワード：武道 東欧 ユーロ武道アカデミー

## 1. 研究開始当初の背景

海外における日本武道の受容のされかたは、競技性に終始することなくその文化性に興味をもって取り組まれている所に大きな特徴がある(鍋山・酒井,2010)。この傾向は、特にヨーロッパに顕著である(Alexander Bennett,2005,阿部 2007)。研究代表者である酒井は、2005年以降ヨーロッパ各地に剣道実技指導のため招聘されており(合計11回)、その際必ず先方からの要請で日本武道に関する文化講演を行ってきた。彼らの武道文化に関する関心は非常に強い。しかし、欧州における武道文化に関する情報の提供は十分ではなく、多くの海外武道実践者が多大の経費と時間を費やし、日本に足を運んでいる。これを逆に我われ日本人研究者・武道指導者が欧州に出向いて、現地において発信出来ないかというのが、本プロジェクトの基本的な発想である。

本プロジェクトの構想については、2011年7月に開催されたハンガリー・カップにおいて、ヨーロッパ剣道連盟会長(国際剣道連盟副会長)Alain Ducarme氏、Dieter Hauck氏(同事務局長)他ハンガリー、ルーマニア、セルビア、フィンランド、ドイツ、フランス等の剣道連盟指導者と会談し、その重要性和実現に向けての協力体制について合意した。

また学術レベルでは、Eotvos Loland university (Hungary)、The Gate of Dharma Buddhist College (Hungary)、酒井が理事を務める Forum for Budo Culture(NPO, Hungary)との連携の上で本プロジェクトの構想について協議が進められ、既に酒井の研究活動として地盤のあるハンガリーを中心に、東欧を対象としてプロジェクトをスタートさせることに合意した。

また筑波大学 BAMIS(Body and Mind

Integrated Science)プロジェクトと連携し、日本人学生の国際的視野に基づいた教育(海外武者修行)プログラムとリンクさせる計画が進んでいる。

以上の経緯から、本プロジェクトは、既にある酒井のネットワークを駆使し更にこれを拡大しつつ、東欧における武道文化拠点を形成しようとするものであり、具体的には「ユーロ武道アカデミー」を日本人学生「海外武者修行」プログラムと連携させつつ構築することを目的とする。

## 2. 研究の目的

・将来的には欧州全体を視野に入れつつ、本研究期間内においては、ハンガリーを拠点として東欧を中心とした武道文化に関する発信の拠点を形成する。

・武道には多くの種目があるが、欧州において特に文化性が認識されており、既に酒井がネットワークを持っている剣道をモデルに「ユーロ武道アカデミー」のプログラムを作成する。

## 3. 研究の方法

本研究の計画および方法は、以下のステップを踏み、最終的に東欧における武道文化拠点を形成し、日本人「海外武者修行」とリンクした完成度の高い「ユーロ武道アカデミー」を構築していく。

- ・組織ネットワークの構築
- ・アカデミー構想図の検討
- ・教材の開発
- ・プログラムの作成と試行

## 4. 研究成果

(1) エトヴェシュ・ロラード大学(Eotvos Loland university)・セメルワイズ大学(Semmelweis University)・タンカプヤ仏教単科大学(Tankapuja Buddista Foiskola)の3大学と筑波大学体育系の部局間協定を結

び、3大学コンソーシアムを形成して、東欧  
ブダペストを拠点とした組織ネットワーク  
を構築した。

(2) アカデミー用教材として、以下のものを  
出版・発信した。

・ A japan kendo tortenete . Forum for Budo  
Culture ,1 ~ 192 頁,2014.3.4(ハンガリー語)

(英訳付き日本剣道の歴史 A Bilingual  
Guide to the History of Kendo . スキージ  
ャナル , 1 ~ 351 , 2010 のハンガリー語版)

・ Ideology of the Sword : A Spiritual  
History of Japanese Culture. Nippon  
Budokan,1 ~ 252,2014.12 (英語)

Contents

Part 1 Introduction

Prologue Embarking on a Journey to Examine the  
Japanese “ Ideology of the Sword ”

Chapter 1 The Sword Ideology Roadmap

Part 2 The Roots of Sword Ideals

Chapter 2 Ancient China and its Legendary  
Swords-The Sword of Tai E

Chapter 3 The Legend of Ganjiang Moye

Chapter 4 Gaozu ' s Sword of Zhan She

Chapter 5 The Sword in Taoist Thought

Chapter 6 Sword Ideals in Ancient Korea

Part 3 The Formation of Mythical Imagery

Chapter 7 The Creation of the Mythical World and  
the Birth of Sword Deities

Chapter 8 The Sword Bequeathed from the  
Heavens-Futsu-no-Mitama-no-Tsurugi

Chapter 9 Connecting the Earthly and Heavenly  
Realms-Kusanagi-no-Tsurugi

Part 4 Sword Ideology and Religiosity

Chapter 10 To Worship and be Worshipped

Chapter 11 “ Hekija ” Swords for Purging  
Evil

Chapter 12 Ukei Magic and Swords

Chapter 13 The Sword in Shugendo

Part 5 Sword Ideals in the Middle Ages

Chapter 14 The Imperial Regalia

Chapter 15 The Three Sacred Treasures *in*  
*The Tale of the Heike*

Chapter 16 Kusanagi-no-Tsurugi *in*  
Taiheiki

Part 6 Early-modern Sword Ideals

Chapter 17 Japanese Myths *in* Kenjutsu  
Texts

Chapter 18 Techniques of the Mystical  
Sword *in* Shintō-ryū Kenjutsu

Chapter 19 The ‘ Sword of the Heart ’ *in*  
the Jigen-ryū

Chapter 20 The Development of Sword Ideals  
*in* Early-Modern Kenjutsu

Part 7 Swords Ideals in the Modern Era

Chapter 21 The Post-modern Sword Ideology

Chapter 22 Linking Antiquity with the  
Present –The Kashima Shrine Sword  
Dedication Ritual

Conclusion

(3) プログラムの試行として、2012年、2013  
年、2014年におけるハンガリー・カップ(東  
欧最大の剣道イベント)において、学生・院  
生を帯同し「海外武者修行プログラム」を試  
行した。

・ 酒井のHP

<http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/~sakai/>

および

日英バイリンガル・ウェブサイト:BUDO WORLD  
-The Martial Ways of Japan ,

<http://budo-world.org/index.html> ,

において、本プログラムに関する情報発信を  
行った。

## 5 . 主な発表論文等

[ 雑誌論文 ] ( 計 8 件 )

軽米克尊・酒井利信、直心影流の成立とそ  
の伝系及び伝承に関する一考察、武道学研  
究、47-3、2015、119-138、査読有

酒井利信、武道教育のこれから「刀剣から

竹刀へ、体育の科学、64、2014、602-607、  
査読無

軽米克尊・酒井利信、直心影流の分派についての一考察 長沼派・藤川派・男谷派の試合・修練形態ならびに剣術観の分析を通して、武道学研究、46-1、2013、1-19、  
査読有

〔学会発表〕(計 8件)

Toshinobu SAKAI・ Junko OHISHI・  
Yoshitaka KARUKOME・ Balázs SZABÓ・  
Raita MURAKAMI、Timea-Silvia KENGYEL、  
Budo Study as International Japanology、  
HHP research weeks 2015、2015年3月  
15日、筑波大学(茨城県つくば市)

小森敏也・酒井利信、近世剣術における戦術に関する一考察、身体運動文化学会第19回大会、2014年12月20日、常葉大学(静岡県浜松市)

軽米克尊・酒井利信、直心影流のしない打ち込み稽古に関する一考察 十之形と他流試合の分析を通して、身体運動文化学会第19回大会、2014年12月20日

〔図書〕(計 3件)

Szakai Tosinobu、Forum for Budo Culture、  
A japan kende tertene、2014、192

Toshinobu Sakai、Nippon Budokan、  
Ideology of the Sword : A Spiritual  
History of Japanese Culture、2014、252

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/~sakai/>

<http://www.budo-world.org/index.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

酒井 利信 (SAKAI, Toshinobu)

筑波大学・体育系・教授